

第1回審議会における各委員の発言要旨

教育振興基本計画の策定

この審議会でみんなで知恵を出して新しい考え方(イノベーション)で、新しい何かを生み出していきたい。四ツ柳会長

策定に当たって

経済が次世代を破壊～親たちが経済活動しすぎたために、次世代へ手が回らなくなった。四ツ柳会長

何が問題なのかを、家庭や学校でどのように考えているかを明らかにしていくべき。青沼委員

宮城県らしさというのは何なのかということを考えていきたい。佐藤委員
教員が現場で元気が出るような教育振興を考えていきたい。佐藤委員

社会総掛かりという中身には、大人のあり方、社会のあり方まで踏み込んで考えていく必要がある。庄司委員

子供も親も、自分が住んでいる地域が大好きだという教育を目指したい。高橋委員

教育の受益者は子供と若者で、教育者は受益者ではなくプロのサービススタッフである。松良委員

望まれる教育環境

宮城県には優れた大学が多い。その環境の中で優秀な人が育つ地盤を作れたら良い。橋委員

宮城県のすばらしい自然を活用して、発想力の豊かな子どもたちが育つ環境をつくりたい。橋委員

教育行政・制度など

県の教育予算を削らなくてはいけない旨の報道を聞いて落胆している。佐藤委員

ノーリスクを目指している教育が多すぎる。学習には小さな火傷も必要。松良委員

これまでの取組・施策を評価し、足し算的に増やさず整合性を考慮し、これからの施策の方向性を検討すべき。庄司委員

教師が忙しく、教育に割くマンパワーの絶対数が不足している。四ツ柳会長

学校に多くの責任が負われ、忙しく時間の余裕がないというのが現状。佐藤委員

教育は社会との関わりが欠かせない、子供たちの健全な成長を阻害している要因を何とかすることが効果的な施策につながる。庄司委員

私学の良さや必要性を問いたい。村山委員

給食費をしっかりと徴収し、給食を継続してほしい。橋委員

子どもの半数くらいは保育園に入り、幼稚園に入りたくても入れない。村山委員

県産品の認識と愛着を育ててほしい。橋委員

生涯自分の歯で食べていける歯の美しい県民、県民性ができたら良い。橋委員

人づくりの方向性

教育の目的は、自立による幸せの実現である。松良委員

宮城県としてどんな子どもを育てたいのか育てるのか、という子ども像を目指していくことが必要。庄司委員

徳育

道徳教育が形をなしていない。科学教育、人文科学を用いて、我々の命がつながっているという感覚を育てる。川島副会長

小中学校は子供の人格形成に大きく関わる。挨拶、礼儀、掃除など生活の基礎となる当たり前のことができるようになる教育が大切である。竹田委員

親子兄弟の情愛や友達との友愛、教わる人たちへの敬いの気持ち等の心が失われている。山城委員

教育の基本は「心・技・体」であるが、「心」の育て上げこそ重要である。山城委員

不登校

中学生になると登校拒否が爆発的に増えている。その要因を掴むことが子どもたちの心情理解につながっていく。山城委員

学力向上の取り組みの背景には不登校も関係する。鈴木(安)委員

人間関係形成

人間関係に問題を抱える大学生が多いが、人間関係を学び直すことは難しい。学力よりも社会に生きる力として人間関係の力をつけるべき。猪平委員

現代は家庭や地域で集団生活を学べる場が少ない。学校が、集団の中で人間が生きる力、人との付き合いを学ぶ貴重な場であるということに重きを置くべき。猪平委員

個人主義が行き渡りすぎて、自分中心的な感覚が家庭の中にあり、周りとうまくのコミュニケーションができない。全体の一員という意識を根付かせるため、生命科学、歴史学等を用いて縦軸方向のつながりを意識した教育を強化する。川島副会長

知

学力向上

学力の向上には小中連携の強化が有効。川島副会長

昨年の全国学力・学習状況調査の結果から、子供の学力の現状に関する危機感を共有したい。梅原委員

世界中の子どもたち、貧しい国でも勉強しており日本が追い抜かれている。梅原委員

学力が低いこと(全国学力・学習状況調査の結果)を地域に公開して認識してもらうことが必要。佐々木(功)委員

時間をかけ情報を得る必要がある。川島副会長

幼稚園、小学校、中学校、それぞれを修業したときに、どんな姿・力がついているべきなのかを共有し課題意識を持ちながら校種間の連携を実践する。鈴木(安)委員

学力というのがいわゆる算数とかができるという事じゃないという部分も共有したい。佐藤委員

生きる力

社会的に自立する人間、知・徳・体のバランスがとれた生きる力を持つ子どもたちを育成していきたい。鈴木(安)委員

自分の居場所が定まらない人が多い気がする。山城委員

若者は、言われたことはこなすが、自分から取り組むことが苦手。成長の差は意欲の差と思う。山城委員

家庭・社会との連携

家庭教育

人を敬うとか尊敬するということを、子供同士の付き合いや親の姿を見ながらつかんでいく。そのことが家庭教育の中にある。四ツ柳会長

地域の安全、親同士のつながりなどは、父親の家庭教育への参加が大きく関わるが、そういう活動を保証していくために家庭教育を考えていく必要がある。石垣委員

教育の原点は家庭教育に有り、そこを疎かにしては成り立たない。四ツ柳会長

夜更かしやテレビ漬けになっている子供達が多いことに対しては、家庭教育が必要。佐々木(と)委員

地域の教育力

地域の中の教育が重要になっているが、コミュニティが充実していない、地域のコミュニティを形成していき、そこで子どもたちがその一員であるという意識を育てていく。石垣委員

地域総合型スポーツクラブの活動では、人よりも場所といった資源が足りない。後藤委員

携帯電話等の普及に伴う問題として、家庭の学習時間の確保、トラブル、コミュニケーション能力の不足などを家庭・地域の役割のなかで深めていく。青沼委員

地域のコミュニティが薄れていることが大きな問題。共生のまちづくりといわれているが、地域の絆がなくなっている。地域の中で子供たちとの関わりが増え、地域の中でコミュニケーションが作れると良い。後藤委員

家庭について

家庭の中の時間の使い方のバランスを改善するために「テレビ・携帯から読書へ」といったような標語を用い具現化したい。川島副会長

教育に対する行動の基盤が、家族同士の交流という社会的な家族の在り方にある。四ツ柳会長

核家庭

世の中の心情の大きな変化は、急激な核家族から始まり、家庭の一体感は極度に薄れてきている。山城委員

核家族化が進み子供を連れて交流するような社会風土が失われてしまったことを、そのままにしていけない。四ツ柳会長

親について

親の教育

世の中が変化している中で、親たちの教育、親としてあるべき姿を考えていかなければならない。鈴木(清)委員

家庭でテレビ・ビデオに多くの時間をとられ、親すら読書をしていないことが問題。川島副会長

学校が家庭に入っていけない風潮もあったが、これからは親も変えていく教育をしなければ、子どもに生活リズムや意欲を持たせることは難しい。鈴木(安)委員

核家族化が進み、親子の関わり方や躰などをどのようにすれば良いのか分からない母親が増えているが、アドバイスすると母親達も変わっていく。佐々木(と)委員

働いている母親は、多忙で生活も夜型となり、子どもの基本的な生活習慣など、教育に無関心な親が多くなっている。また、高学歴の母親などから学校に極端な要求が増えている。佐々木(と)委員

県内に「お父さんたちの会」が増えていることは危機意識を反映しているのではないかと。石垣委員

生涯学習・社会教育

色々な親がいる場面に出くわすが、社会教育、生涯教育にもっと重きを置く必要がある。高橋委員

県の豊かな自然や食文化、歴史、文化を子供たちの学習の場や社会教育の活動に生かす。高橋委員